

# 富士見町議会総務経済常任委員会 所管事務調査報告書

平成25年11月13日

富士見町議会  
議長 織田 昭雄 様

富士見町議会総務経済常任委員会  
委員長 五味 平一

平成25年9月定例会において議決された議員派遣の結果について、下記のとおり報告いたします。

## 記

1. 調査期間 平成25年11月11日（月）～11月12日（火）
2. 調査場所
  - ① サンサンファーム（静岡県掛川市）
  - ② とびあ浜松農協 花き販売センター（静岡県浜松市）
  - ③ とびあ浜松農協 農産物直売所「ファーマーズマーケット」  
（静岡県浜松市）
3. 調査事項
  - ① サンサンファーム  
観光農業・地域振興全般について
  - ② とびあ浜松農協 花き販売センター  
花卉販売センターの状況と生産組合の状況について
  - ③ とびあ浜松農協 農産物直売所「ファーマーズマーケット」  
農産物直売所における優良店舗の現況視察
4. 派遣議員 織田昭雄 五味平一 小池 勇 三井新成 小林市子 平出隼仁
5. 調査概要

当町の農業は、従事者の高齢化に伴い販売額が年々減少している。しかし、広大な農地を抱え、自給生産を含め関係する町民は多く、農村景観維持の観点からも、これ以上の衰退は好ましくない。

また、人口減少時代に突入したが、町内における地域間格差は大きく、地域の実情に応じたきめの細かい対策が求められている。

この様な現状に鑑み、当委員会は、町発展の参考にすべく、近年各地で急速に拡大している「農家の直売所」の先進的事例、優良事例を調査した。

#### ① サンサンファーム (静岡県掛川市)

当施設は、平成2年に大須賀町(当時、平成17年掛川市に合併)の「新ふるさと活性化事業」として企画され、若干の曲折を経て、観光農業(イチゴ・トマトもぎ取り)と農産物・地場産品の販売、観光PRの拠点として、平成5年度にスタートした。

農産物直売所が注目され出したのは平成12年ころからであることを考えれば、かなり先駆的、斬新な試みであったと評価される。すでに18年経過しているが、当初は近隣に類似施設が無いこともあり、非常に好調であった。しかし、最近の5年を見れば、年々売り上げが減少し、最近の2年は連続赤字を計上し、現状での継続が困難になってきているとの事であった。

道路事情の変化で人の流れが変わる、町の合併による行政との温度差、近隣に大型直売所が出来た等、取り巻く環境が大きく変化する中で、ついて行けなくなったという事であろうか。

施設導入は難しくないが、長期に亘る償却期間の間の世の中の変化に対応し続ける事がいかに難しいか、深く考えさせられる事例であった。

#### ② とぴあ浜松農協 花き販売センター

当農協は、浜松市、湖西市を範囲とし、平成7年に16農協の合併により設立された、静岡県最大の農協である。温暖な気候のもと、野菜、花卉、果樹、畜産、それぞれきわめて多様な品種が生産され、扱い高は200億円を超える。地元 信州諏訪農協の扱い高が90億円であることを考えれば、その大きさが理解されるであろう。しかし、貯金残高が1兆円であり、諏訪農協の2,540億円と比べれば、より都市型農協としての性格が強いのである。

今回調査した花卉販売センターは、総事業費12億円をかけ、バーコードによって荷受けから販売までコンピューター管理できる、最新鋭の施設である。

2,000種類を扱いながらも、経費節減と販売力強化を同時に図る切り札とも言える。





大型合併の強みをいかに発揮している好事例と言えよう。花卉の販売額は 36 億円、菊が首位で 13 億円となっている。

諏訪農協の花弁販売額は 23 億円であり、菊に関してはかなり競争関係にある。ただ、当地域では、菊は年 2.5 回と、通年栽培されているが、夏場は高温障害を受けやすく、その時期の諏訪の優位は揺るがないものと思われる。

### ③ とぴあ浜松農協 農産物直売所「ファーマーズマーケット」

これは当初予定にはなかったが、農協経営の大型直売所があるとの事で組み入れたものである。

とぴあ浜松農協では、平成 13 年から直売の取り組みを始め、昨年暮れに開店したものを含め、現在 4 店舗を擁している。販売実績は、平成 24 年度は 3 店舗で 17 億円であり、今年、20 億円が目標との事。最大では、9 億 5,000 万円の店舗があり、客が入り切れないため入場制限することもしばしばとの事である。

広い駐車場があり、短期間（3 年から 5 年）で改修しているため、内外ともにきれいであり、客が多いので店内に活気がある。

品ぞろえも豊富で鮮度もよい。現時点ではすべてが順調に回っているように思われ、前日のサンサンファーム店長の嘆きが現実のものとして実感された。

5 年先、10 年先にどうなっているか興味深い。

（文責 小池 勇）

